

Messor ebeninus

Santschi, 1927

中東にすむ、黒檀のようにつやのある黒い種子収穫アリで、種子は上の階にたくわえ、ブルードはずっと下の湿った土の中で育てます。



写真：Moshe Neeman (מושה נעמן, moshe_neeman), CC BY 4.0

ひと目でわかる情報



巣の温度
22–28 °C

巣の中



巣の湿度
50–60 %

穀物庫：30–50 %



休眠
15–18 °C

1月–2月



結婚飛行
11月–12月

雨のあと



働きアリ
4–8 mm

大型働きアリは最大10 mm



女王
11–12 mm

女王は1匹



コロニーの規模
働きアリ5,000匹規模

成長速度：普通



脱走リスク
低い

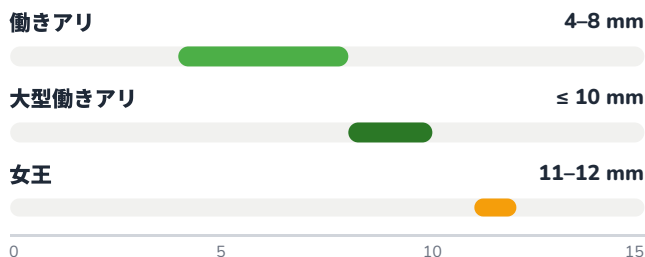
おとなしく、めったに脱走しません

1年をひと目で



この種の実産地での月です。正確な日は天気で決まり、室内で飼育しているコロニーは別のリズムになることがあります。

同じ縮尺での大きさ



飼育の早見表

食べ物

種子

昆虫

砂糖

おすすめの巣

- Ytongの巣
- アクリル製の巣
- 自然再現型のセットアップ

この評価の理由

- ✓ おとなしく、めったに脱走しない働きアリ
- ✓ 完全閉鎖型：最初の働きアリが現れるまで、女王に餌は不要です
- ✓ 種子を貯めるので、餌やりを忘れても問題ありません
- ⚠ 乾いた穀物庫と湿ったブルード室のように、湿度の勾配が必要です

飼育者からのメモ

ヒント

野生の巣の2つの階層を再現しましょう。上は乾かして種子の貯蔵庫に、下は湿らせて女王アリとブルードの場所にします。Ytong製や石膏製の巣では、片方の端にだけ水を与え、もう片方は乾いたままにしておきます。

注意

秋の飛行のあとに捕まえた女王アリは冬の終わりにってから産卵するため、何か月も卵のない試験管は普通のことです。その後の若いコロニーはゆっくり成長し、この研究では、翌年の秋になっても働きアリは数十匹にすぎませんでした。